

# ルーマニア月報



平成30年2月9日  
在ルーマニア大使館作成

Embassy of Japan in Romania  
<http://www.ro.emb-japan.go.jp>

2018年1月号

本月報はルーマニアの報道をもとに、日本大使館がとりまとめたものです。

(AG:アジェルプレス通信, ZF:ズィアルル・フィナンチアル紙, NO:ナインオクロック紙)

## 主要ニュース

- 【内政】●PSD(社会民主党)の緊急CEX(全国執行委員会)が開催され、トゥドセ首相に対する政治的支持の取り下げについて投票が行われた。その結果を受けてトゥドセ首相が辞任した。
  - ダンチラ新内閣が発足した。
- 【外政】●ヨハニス大統領は、コトロチェニ宮殿において、各国外交団長を前に、念頭の外交方針演説を行った。
  - ヨハニス大統領は、ブリュッセルを訪問し、ユンカー欧州委員会委員長等と会談を行った。
- 【経済】●ルーマニア道路インフラ公社(CNAIR)とアスタルディー・IISのJVは、ドナウ河プライラ橋建設入札に関し、トゥドセ首相立ち会いの下で契約の調印を行った(15日)。
  - ルーマニア中銀は、政策金利を年率1.75%から2.00%へ引き上げることを決定。中銀貸出金利を2.75%から3.00%に引き上げ、中銀預入金利は0.75%から1.00%に引き上げた。
  - ルーマニアの2017年第三四半期のGDP成長率は、対前年同期比8.8%(季節調整前)、8.6%(季節調整後)。2017年1~9月末は7.0%(季節調整前)、6.9%(季節調整後)。
  - 11月の平均給与(グロス)は、3,430レイ(約745ユーロ)で、対前月比で+3.1%増加。平均給与(手取り)は2,464レイ(約535ユーロ)で、対前月比で72レイ(+3.0%)増加。
- 【我が国との関係】●安倍総理はバルト三国、ブルガリア、セルビアの訪問に続く欧州歴訪の最終国としてルーマニアを訪問した。現職の総理大臣としては史上初の訪問となった。
  - 安倍総理に同行した経済ミッションの代表は、野上官房副長官とスタネスク副首相との拡大会合に参加した他、同副首相主催のワーキングランチ、ヨハニス大統領主催の夕食会に出席した。

## 内政

### ■トゥドセ首相の辞任

・4日、バダラウPSD党首代行は、現在27人いる閣僚の数を16-17人に削減する希望がPSDの中にあることに言及。

・8日、トゥドセ首相は、1月末にヤシで開催されるCEXで内閣の再編を目指すことを述べた。また、バダラウPSD党首代行は、PSDのメンバーへのオープンレターの中でPSDの党内の「集団のリーダーシップ」を要請した。

・10日、未成年に対する性的虐待で警察官が逮捕された事案と、その後の警察庁長官の罷免と新長官の任命を巡るトゥドセ首相とダン内務大臣とのやりとりに関連して、ダン内務相が首相に嘘をついたとして、トゥドセ首相がダン内務相に辞任を迫った。ダン内務相は党の要請がない限りは辞任を拒否すると述べた。報道によれば、トゥドセ首相は、他にもボドグ保健相、ラウファ・ビジネス環境相等を解任させたい意向。ドラグネア党首は、モルドバ地方の党幹部との協議のた

め、国内出張をした。

・13日、党内の緊張が高まっているとして、フィレア・ブカレスト市長、プルンプ副党首等のPSD幹部が当初予定より2週間前倒して全国執行委員会（CEX）の招集を求めた。

・15日、PSD（社会民主党）の全国執行委員会（CEX）が開催され、その後行われたぶら下がり会見においてトゥドセ首相が辞任を表明した。報道によれば、CEXではトゥドセ首相に対する政治的支持の取り下げについて投票が行われ、60人の賛成に対し、4人が反対。4人が棄権。これを受けトゥドセ首相が辞任した。

### ■ダンチラ内閣の発足

・17日、ヨハニス大統領は各党党首等と相次いで協議を行った。その結果、16日のPSDの党内協議を受けてPSD及びALDE（自由民主主義連盟）から推薦のあったヴィオリカ・ダンチラ欧州議会議員を新首相として指名した。ヨハニス大統領は、選挙後のわずか一年間で二つの政府が失敗したと述べ、不安定な政治が経済に悪い影響をもたらす可能性について指摘した。また、PSDにもう一度チャンスを与えるべくダンチラ氏を首相に指名することにしたと述べた。

・ダンチラ新首相は54歳。テレオルマン県出身。石油会社エンジニア等を勤める傍ら、テレオルマン県ヴァイデレ市議会議員、後に県議会議員等を勤め、2009年から欧州議員。

・29日、議会による信任（賛成282票、反対136票、棄権1票）及び大統領府における宣誓式を経て、ダンチラ新内閣が発足した。首相を除く27の閣僚ポストのうち、16閣僚が新たに任命され、新規ポストとして戦略的パートナーシップ担当の副首相が設置された。ドラグネア党首の直接の影響下にあるダンチラ首相以外の閣僚ポストはCEX（PSD全国執行委員会）の投票で決定された。

### 【閣僚一覧】

首相：ヴィオリカ・ヴァシリカ・ダンチラ（欧州議会議員）

副首相兼地域開発相：パウル・スタネスク

副首相兼環境相：グラツィエラ・ガヴリレスク（ALDE（自由民主主義同盟）副党首、下院議員）

副首相（無所掌）：ヴィオレル・シュテファン（元財務大臣）（新）

副首相（戦略的パートナーシップ担当）：アナ・ビルチャル（グリーンデアヌ内閣の欧州担当大臣）（新）

内務相：カルメン・ダン

外務相：テオドル・メレシュカーヌ（ALDE）

国防相：ミハイ・フィフォル

財務相：エウジェン・テオドロヴィッチ（ポンタ内閣の欧州基金大臣）（新）

法務相：トゥドレル・トアデル（無所属）

農業・農村開発相：ペトレ・ダエア

教育相：ヴァレンティン・ポパ（スチャバ大学学長）（新）

労働・社会公正相：オルグツァ・ヴァシレスク

経済相：ダヌツ・アンドルシュカ（下院議員）（新）

エネルギー相：アントン・アントン（下院議員、ALDE）（新）

運輸相：ルチアン・ショヴァ（前通信・情報社会相）（新）

欧州基金担当相：ロヴァナ・プルンプ（元EU基金相）（新）

ビジネス環境・貿易・起業相：シュテファン・ラドゥ・オプレア（上院議員）（新）

保健相：ソリナ・ピンテア（新）

文化・アイデンティティ相：ジョルジュ・イヴァシュク（俳優。新）

水利・森林相：イオアン・デネシュ

研究・イノベーション相：ニコラエ・ブルネテ（クルージュ工科大学理事長）（新）

通信相：ボグダン・コジョカル（ヤシ県議会議員、PSDヤシ青年部長）（新）

青年・スポーツ相：ヨワナ・ブラン（下院常務局書記）（新）

観光相：ボグダン・トリフ（国立環境保護コミッショナー、シビウPSD支部長代行）（新）

在外ルーマニア人相：ナタリア・イントテロ（下院議

員) (新)

議会関係相：ヴィオレル・イリエ (ALDE)

欧州問題担当相：ヴィクトル・ネグレスク

・29日、ダンチラ首相は議会において新内閣の目標は2020年にEUの経済ランキングで上位半分につけること、また新内閣は新しい税金は導入しないと述べた。

・30日、ダンチラ首相と同内閣の大臣は、SPP (警備・警護庁) による警護をつけないことを決定。ドラグネア党首が、SPPが大臣のスパイ行為をしていると主張したことを受けたもの。ドラグネア党首は、特にパラホントゥSPP長官を「パラレル不正国家」のメンバーとして批判している。ダンチラ首相は、SPPに代わり治安警備隊 (ジャンダルメリア) による警護を要請した。SPPは大統領府管轄、ジャンダルメリアは内務省管轄。

#### ■司法関連法改正案等を巡る動き

(背景:昨年12月末に3件の司法関連法改正法案が、ヨルダケ元法務大臣を委員長とする議会特別委員会、および上下両院における緊急審議手続きを経て、可決された。その後、最高裁及び野党から憲法裁判所に違憲申請が出され、違憲性が指摘されたこれら3法案が議会に差し戻された。また、刑法改正案については議会特別委員会で別途審議予定)

・20日、ブカレスト及び主要都市で比較的大規模な抗議活動が起こった。ブカレストでは、電車やバスで地方から上京した参加者を含め数万人から6万人程度が大学広場から議会宮殿まで行進を行った。

・24日、ユンカー欧州委員会委員長、ティーマーンス第一副委員長は共同で声明を発表し、ルーマニアの司法に関する最近の動きに対する憂慮を示した。声明の中で、欧州委員会はルーマニア議会に対し、司法の独立と、汚職との戦いに逆行しないように警告し、法案の再考を促した。また、司法関連法案、刑法改正案、利害の衝突と汚職に関する法律の最終的な修正を徹底的に見守ると述べた。これに対し、ドラグネア下院議長とタリチャーヌ上院議長はユンカー欧州委員会委員

長とティーマーンス第一副委員長に対する公開書簡の中で、法律の改正にあたっては憲法とヴェニス委員会の助言が常に考慮されてきたと説明した。また欧州委員会はこれらの法律について正確な情報を得ていないとも述べた。

・29日、ドラグネアPSD党首は、欧州委員会のルーマニア代表部は司法関連法改正案について虚偽の情報をブリュッセルに送っていると非難した。

・30日、憲法裁判所は、裁判官と検察官の身分に関する法律第303号のいくつかの修正条項が憲法違反の可能性があると、議会への差し戻しを要求した。

#### ■ハンガリー系政党の動き

・8日、UDMR (ハンガリー人民民主同盟)、ハンガリー市民党 (PCM)、トランシルバニアハンガリー人民党 (PPMT) は、クルージュナポカで、「セーケイランド」(ハルギタ県、コヴァスナ県)の自治を要求する共同の決議を発表し、トランシルバニア地方のハンガリー系住民の自治の拡大を求めた。これに対し、ドラグネアPSD党首、オルバンPNL (国民自由党) 党首は相次いでコメントを発表し、決議は違憲であり受け入れられないと述べた。

・11日、トゥドセ首相はハンガリー少数民族の自治についての協議は、統一100周年の年に不安定さをもたらす以外の何物でもないと述べ、いかなる形でも自治について協議をするつもりはないとした。

・12日、シーヤールトール・ハンガリー外務大臣は、ラズルカ・在ハンガリー・ルーマニア大使を召喚し、トゥドセ首相のコメントの中での表現が欧州の価値に照らして恥辱的なものだと抗議した。

#### ■マザレ元コンスタンツァ市長のマダガスカル渡航

・4日、報道によれば、PSDの幹部の一人のマザレ・元コンスタンツァ市長は2017年末にマダガスカルに渡航し、マダガスカル政府に政治的理由による亡命を求めると述べた。マザレ元市長は、汚職の罪で公判中。ルーマニアとマダガスカルの間に犯罪者の引き渡し条約がないため、ルーマニア政府はマザレ元市長の引き渡しは要求できない。

## **外政**

### **■主な要人往来**

- ・ 5日、ヨハニス大統領は、ネタニヤフ・イスラエル首相と電話会談を行った。
- ・ 8日、ネグレスク欧州問題担当相は、ハーグにおいて、ザイルストラ・オランダ外相と会談を行った。
- ・ 10日、メレシュカーヌ外相は、ウリヤノヴスキ・モルドバ外務兼欧州統合相の就任を受けて、電話での会談を行った。
- ・ 11日、メレシュカーヌ外相は、ウクライナを訪問し、クリムキン・ウクライナ外相と会談した。会談では、ウクライナの新教育法に関する協議を開始することで合意した。
- ・ 17日、ヨハニス大統領は、ブカレストを訪問したアルファアーノ・イタリア外相と会談を行った。メレシュカーヌ外相は、アルファアーノ外相と協議し、両政府の第3回合同閣議の準備を進めていくことで合意した。
- ・ 19日、メレシュカーヌ外相は、ブカレストを訪問した、レンツィ・サンマリノ外務・政務・司法長官と会談を行った。
- ・ 22日、メレシュカーヌ外相は、ブリュッセルで開催されたEU外務理事会に出席した。また、チャプトヴィイチ・ポーランド外相及びクナイスル・オーストリア外相とそれぞれ会談を行った。
- ・ 23日、ヨハニス大統領は、コトロチェニ宮殿において、各国外交団長を対象とした念頭の外交方針演説を行った（下記【大統領の外交方針演説】参照）。
- ・ 29-30日、クレツ地域開発担当欧州委員は、ブカレストを訪問し、30日には、ダンチラ新首相と会談を行った。
- ・ 31日、ヨハニス大統領は、ブリュッセルを訪問し、ユンカー欧州委員会委員長及びトゥスク欧州理事会議長とそれぞれ会談を行った（下記【EU関係】参照）。
- ・ 31日、メレシュカーヌ外相は、ブカレストを訪問したイゾリア・ジョージア国防相と会談を行った。

### **■イスラエル・パレスチナ情勢**

- ・ 10日、メレシュカーヌ外相は、駐ルーマニアのアラブ諸国大使との会合において、イスラエル・パレス

チナ問題に触れ、二国家の共存という解決に言及した。

### **■大統領の外交方針演説**

外交の3つの柱は、米国、EU及びNATO。2019年のEU議長国就任を見据え、「EUの東の柱としての役割」を認識。

仏、独及びポーランドとの関係に言及。引き続きモルドバ支援を重視。

地域協力としての「ブカレスト・フォーマット」及び「三海域協力」を重視。

安倍総理訪問に言及し、日・ルーマニア関係を戦略的パートナーシップに引き上げていく決定を評価。また、内政の安定等の必要性についても指摘した。

### **■アフガニスタン情勢**

- ・ 27日、ルーマニア外務省は、カブールで発生し、多くの死傷者を出したテロ攻撃を、厳しく非難する声明を発出した。

### **■EU関係**

- ・ 31日、ブリュッセルにおいてヨハニス大統領と会談したユンカー委員長は、ルーマニアにおける司法関連法改正を巡る動きに言及し、協力・検証メカニズムやシェンゲン加盟に向けた協議にも影響が出てくることを示唆した。

ヨハニス大統領は、司法関連法や刑法改正をルーマニアにおける主要な問題であると述べると共に、解決は国内の問題であり、大統領として考えられるあらゆる方法で、問題に取り組むことを訴えた。また、ルーマニアの展望が、極めて親欧州的なものであり、戦略的目標がEUの更なる統合にあると述べた。

### **■国連関係**

- ・ 31日、ルーマニアは、平和構築委員会の議長国を引き継いだ（任期1年）。

### **■軍事・安全保障関係**

- ・ 31日、フィオル国防相は、ブカレストを訪問したイゾリア・ジョージア国防相と会談を行った。

## 経済

### ■マクロ経済

(特に記載のない限り、対前年比又は前年同期比、季節調整後、出典は国家統計局 I NS)

#### 【11月分統計】

##### (1) 鉱工業

	10月	11月
工業生産高	9.6%	9.5%
工業売上高(名目)	17.2%	12.4%
工業製品物価指数	4.0%	4.4%
新規工業受注高(名目)	19.4%	17.4%

工業売上高(名目)及び新規工業受注高(名目)が減速。

##### (2) 販売

	10月	11月
小売業売上高 (自動車・バイクを除く)	12.9%	11.7%
自動車・バイク売上高	10.8%	9.6%
小売業売上高 (ユーロスタット)	ユーロ圏 0.4%	ユーロ圏 2.8%
	EU28か国 0.9%	EU28か国 2.7%

なお、2017年11月の小売業売上高(ユーロスタット)対前年同月比では、ルーマニア(+10.9%)が最も増加し、次いでポーランド(+7.6%)及びマルタ(+7.0%)。

##### (3) その他

建設工事	10月	11月
	▲10.3%	▲3.8%

##### (4) 輸出入

	10月	11月
輸出	€57億6,180万 (13.3%)	€57億8,560万 (8.9%)
輸入	RON264億5,250万 (16.0%)	RON267億3,220万 (11.6%)

輸出	€70億8,660万 (16.9%)	€69億820万 (11.8%)
輸入	RON325億3,410万 (19.6%)	RON319億1,640万 (14.6%)

#### 【1月～11月分統計】

##### (1) 鉱工業

	10月	11月
(2)		
工業生産高	8.8%	8.9%
工業売上高(名目)	11.6%	11.7%
新規工業受注高(名目)	12.2%	12.7%

##### (2) 販売

	10月	11月
小売業売上高 (自動車・バイクを除く)	9.2%	9.4%
自動車・バイク売上高	12.7%	12.3%

##### (3) その他

建設工事	10月	11月
	▲8.4%	▲8.0%

##### (4) 輸出入

	10月	11月
輸出	€523億6,000万 (9.6%)	€581億4,680万 (9.5%)
輸入	RON2,385億2,000万 (11.3%)	RON2,652億5,790万 (11.4%)
輸出	€625億6,680万 (12.4%)	€694億9,120万 (12.3%)
輸入	RON2,850億4,880万 (14.1%)	RON3,170億3,970万 (14.2%)
貿易収支	▲€102億680万 (▲€22億9,780万)	▲€113億4,440万 (▲€25億6,990万)
	▲RON465億2,880万 (▲RON110億7,630万)	▲RON517億8,180万 (▲RON124億3,040万)

## 【12月分統計】

### ・消費者物価指数

	11月	12月
全体	3.23%	3.32%
食料品価格	3.88%	4.07%
非食料品価格	4.12%	4.11%
サービス価格	0.10%	0.22%
消費者物価指数 (ユーロスタット)	ユーロ圏 1.5% EU28か国 1.8%	ユーロ圏 1.4% EU28か国 1.7%

2017年12月の消費者物価指数(ユーロスタット)対前年同月比では、キプロス(▲0.4%)、アイルランド及びフィンランド(0.5%)及びデンマーク(0.8%)が最も低い。

### 【その他統計】

・12日、ルーマニアの2017年第三四半期のGDP成長率は、対前年同期比8.8%(季節調整前)、8.6%(季節調整後)。2017年1~9月末は7.0%(季節調整前)、6.9%(季節調整後)。2017年第三四半期のGDP成長率は、対前期比2.6%(季節調整後)であった。(INS)

### ■産業界の動向

・1日、フランス自動車製造者委員会(CCFA)によると、2017年12月におけるフランスでのダチア新規登録台数は10,960台になり、対前年同月比で+12.2%増加した。フランスでのダチアのマーケット・シェアは5.67%であり、前年同期から0.64%ポイント増加した。フランスの自動車市場全体は-0.5%減少した。1月~12月にかけては、ダチア新規登録台数は11万7,865台になり、対前年同期比で+6.6%増加した。フランスの自動車市場全体は+4.7%増加した。1~12月末までダチアのマーケット・シェアは5.58%であり、前年同期から0.10%ポイント増加した。

・5日、イギリス自動車製造販売協会(SMMT)によると、12月におけるイギリスでのダチア新規登録

台数は983台になり、前年同月の1,891台と比較して-48.02%減少した。1~12月のイギリスでのダチア新規登録台数は2万5,149台になり、前年同期の2万6,499台と比べて-5.09%減少した。1~12月におけるイギリスでのダチアのマーケット・シェアは0.99%であり、前年同期の0.98%から0.01%ポイント増加した。

・10日、ルーマニア運転免許証・自動車登録局(DRPCIV)によると、12月の新車登録台数は11,238台に達し、対前年同月比で-10.80%減少した。

・17日、欧州自動車工業会(ACEA)によると、12月におけるヨーロッパでのダチア自動車新規登録台数は4万819台となり、対前年同月比で+10.3%増加した。1~12月にかけては、ダチア自動車新規登録台数は46万3,543台となり、対前年同期比で+12.1%増加した。

・30日、ルーマニア自動車生産者輸入業者協会(APIA)によると、1~12月の車両販売台数は156,527台で、対前年同期比で10.2%増加した。2017年1~12月のメーカー別自動車販売は1位がダチア(39,596台、市場シェア:30.4%、対前年同期比で+11.7%)で、次いでVolkswagen(13,969台、市場シェア:10.7%、対前年同期比で+16.6%)、Skoda(11,631台、市場シェア:8.9%、対前年同期比で+13.3%)、Renault(10,393台、市場シェア:8.0%、対前年同期比で+24.5%)、Ford(8,124台、市場シェア:6.2%、対前年同期比で+16.8%)、Opel(5,543台、市場シェア:5.0%、対前年同期比で+20.3%)。

### ■公共政策

・15日、ドナウ河ブライラ橋建設の入札に関し、ルーマニア道路インフラ公社(CNAIR)とアスタルディ(伊)・IIS(日)のJVは、トゥドセ首相立ち会いの下で、契約の調印を行った。

・19日、欧州基金省は、2018年1月19日の時点での欧州基金(20014~2020年)執行率を

10. 86%と発表。(19日付欧州基金省)

### ■財政政策

・26日、公共財務省は、12月末のルーマニアの財政収支は約242億6,070万レイ、対GDP比で2.88%の赤字であったと発表。2016年12月末の財政収支は約182億9,430万レイ、対GDP比で2.41%の赤字であった。(公共財務省)

### ■金融等

・8日、ルーマニア中央銀行(BNR)は、政策金利を年率1.75%から2.00%へ引上げることを決定、9日から実施。中銀貸出金利を2.75%から3.00%に引上げ、中銀預入金利は0.75%から1.00%に引き上げた。

・3日、11月末の外貨準備高は334億9,400万ユーロ(11月末の330億6,200万ユーロから増加;2016年12月の342億4,200万ユーロから減少)、金準備高は103.7トンで不変。(BNR)

・15日、11月末の経常収支等について次のとおり発表。

(1) 経常収支は55億8,100万ユーロの赤字。なお、前年同期には28億9,600万ユーロの赤字であった。

(2) 外国直接投資(FDI)は、43億7,700万ユーロ。なお前年同期は36億5,100万ユーロ。

(3) 中長期対外債務は、2016年末から0.4%減少し、693億5,400万ユーロ(対外債務全体の73.5%)。

(4) 短期対外債務は、2016年末から7.6%増加して、250億3,900万ユーロ(対外債務全体の26.5%)。(BNR)

### ■労働・年金問題等

・2017年12月29日、国家雇用庁(ANOFM)は、11月末の失業率は10月末の失業率から0.04%ポイント、2016年11月末の失業率から0.75%ポイント低下して、4.00%となったと発表。

・12日、11月の平均給与(グロス)は、3,430レイ(約745ユーロ)で、対前月比で+3.1%増加。平均給与(手取り)は2,464レイ(約535ユーロ)で、対前月比で72レイ(+3.0%)増加。なお、平均給与(手取り)が最も高かった業種は、プログラミング、コンサルティング及び関連活動分野で6,157レイ(約1,338ユーロ)で、最も低かったのは宿泊・飲食業の1,409レイ(約306ユーロ)。(為替レートは4.60レイ・ユーロ)(INS)

・19日、国家雇用庁(ANOFM)は、12月末の失業率は11月末の失業率から0.02%ポイント増加し、2016年12月末の失業率から0.75%ポイント低下して、4.02%となったと発表。

・31日、ILO基準による12月末の失業率(季節調整後)は11月末の4.7%から0.1%ポイント減少して、4.6%になった。(INS)

### ■格付(2018年2月9日付)

Fitch	外貨建長期(国債)	BBB-	(安定的)
	自国通貨建長期	BBB	(安定的)

S&P	外貨建長期	BBB-	(安定的)
	自国通貨建長期	BBB-	(安定的)

JCR	外貨建長期	BBB	(安定的)
	自国通貨建長期	BBB+	(安定的)

(内はアウトルック)

### ■我が国との関係

#### ■安倍内閣総理大臣の訪問

・16日、安倍総理はバルト三国、ブルガリア、セルビアの訪問に続く欧州歴訪の最終国としてルーマニアを訪問した。現職の総理大臣としては史上初の訪問となった。

・安倍総理は、昭恵夫人とともに、国土交通省の予算で修復工事を終えた日本庭園及び、農村博物館を訪問した。その後、大統領府においてヨハニス大統領との首脳会談及び共同記者発表を行った。また、夕方は国立歴史博物館を見学した後、夜には、昭恵夫人、野上

副長官、日本から同行した経済ミッション18社代表とともに、大統領府における夕食会に出席した。前日（15日）夜にトゥドセ首相が辞任したため、予定されていたトゥドセ首相との首脳会談はキャンセルされた。

・安倍総理に同行した経済ミッションは野上内閣官房副長官をヘッドとして、スタネスク副首相兼地域開発・公共政策相と会談した。また、同副首相主催のワーキングランチに出席した。

#### ■ヨハニス大統領との共同記者発表内容

（ヨハニス大統領発言）

・日本の総理大臣の初の公式訪問であり、また近代ルーマニア成立100周年という重要な年の訪問に感謝。  
・共通の価値と戦略的な目標の共有、不安定な情勢における安全保障面についての同様の評価、共通の経済的関心等に鑑み、遠くない将来に二国間関係を戦略的パートナーシップのレベルに引き上げることを確認した。

・日本企業のさらなる投資の実現、貿易の拡大を期待。  
・シビウ国際演劇祭、日EU・EPA、BREXIT、黒海地域、北朝鮮問題について意見を交換した。

（安倍総理発言）

・35年ぶりのルーマニア訪問、また100周年とく記念すべき年の訪問が実現して嬉しく思う。  
・ルーマニアは地理的要衝に位置し、基本的価値を共有する重要なパートナー。安全保障の分野で協力を進めていくことで一致した。  
・北朝鮮への圧力を最大限に高めること、拉致問題の早期解決で認識を共有した。  
・両国の関係強化の柱は経済。「ブカレスト国際空港アクセス鉄道計画」の着実な実施の確認。  
・ビザ免除措置を決定した。  
・経済ミッションの訪問を契機に経済をはじめとするあらゆる分野で関係発展を期待。